

平成31年4月1日

立正大学地球環境科学部環境システム学科

立正大学大学院地球環境科学研究科環境システム学専攻

環境気象学分野

## 鈴木パーカー明日香助教が立正大学環境気象学分野講師に昇任

～「大気環境モデリング研究室」を主宰しつつ生気象学研究にも傾注～

立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野の鈴木パーカー明日香(すずき・ぱーかー・あすか)助教が、平成31(2019)年3月31日付で定年退職した吉崎正憲教授の後任として、平成31(2019)年4月1日付けで専任講師に昇任した。

鈴木パーカー明日香博士は、千葉県出身であるが、高校3年生の秋に交換留学生として渡米し、高校卒業後もアメリカの大学・大学院に進学し、平成23(2011)年8月にジョージア工科大学大学院理学研究科一貫制博士課程を修了してPh.D.の学位を取得した。学位請求論文タイトルは『An assessment of uncertainties and limitations in simulating tropical cyclone climatology and future changes』であり、熱帯低気圧研究を専門とする新進気鋭の研究者である。上記学位請求論文は世界的出版社であるSpringerが主宰して、広く世界から自然科学横断的に最も優秀な学位論文を選出するSpringer Thesis Awardを受賞し、出版されている([Suzuki-Parker, A., 2012](#))。学位取得まではジョージア工科大学大学院に在籍するとともに、学生研究員としてアメリカ大気研究センター(NCAR)に勤務していたが、学位取得直後の平成23(2011)年9月に帰国して筑波大学研究員を経て、平成27(2015)年9月1日付で立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野助教に就任し、今日に至っていた。

鈴木パーカー明日香博士は、地球規模モデルによる計算結果に領域気象モデルを適用するダウンスケーリングを用いる研究手法を得意としているが、帰国後その適用対象が熱帯低気圧より小規模な都市気候現象にまで拡張されるとともに、その結果の人間生活への影響にも興味及び生気象学的研究にも着



鈴木パーカー明日香講師近影

手するに至っている。

立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野助教在職中の3年半における鈴木パーカー明日香博士の業績は、以下の如く、著書2篇、学術論文7篇に及んでいる。

(著書)

『日本気候百科』丸善出版(分担執筆), 2018.

『環境のサイエンスを学ぼう –正しい実験実習を行うために–』丸善プラネット(分担執筆), 2016.  
(学術論文)

Sensitivity of quasi-stationary band-shaped precipitation system to topography: A case study for 28 August 2008

Okazaki heavy rainfall event. *J. Meteorol. Soc. Japan*, (in print), 2019. DOI:10.2151/jmsj.2019-026.

Contributions of GCM/RCM uncertainty in ensemble dynamical downscaling for precipitation in East Asian summer monsoon season. *SOLA*, **14**, 97-104, 2018.

第3の台風カテゴリー「高温台風」の諸特性 –雨台風・風台風との比較–. 地球環境研究, **20**, 185-191, 2018.

流体運動に見られる共振現象とは? 天気, **65**, 123-129, 2018.

Extreme precipitation linked to temperature over Japan: Current evaluation and future changes with multi-model ensemble downscaling. *Climate Dynamics*, 2017. doi:/10.1007/s00382-017-3866-8.

長野市におけるドップラーライダーを用いた山風の観測とWRFによる数値実験. 地球環境研究, **19**, 63-71, 2017.

Assessment of RCM and urban scenario uncertainties in the climate projections for August in the 2050s in Tokyo. *Climatic Change*, **137**, 427-438, 2016. doi:/10.1007/s10584-016-1693-2.

鈴木パーカー明日香博士は、立正大学着任後は「大気環境モデリング研究室」を主宰し、従来の研究活動を継続するとともに、帰国後フィールド調査の観点を重視しつつ着手した都市気候学や生気象学的研究における新たなモデル構築も目指している。平成23(2011)年9月に帰国してから着手した生気象学的研究も徐々に成果を挙げ始めて学界で注目されるようになり、平成31(2019)年3月、「疾患別死亡率と総観規模気象変動に関する気候学的研究」が日本地理学会より2018年度吉野正敏研究助成に採択された。また、鈴木パーカー明日香博士の着任に前後して立正大学環境気象学分野に導入されて運用開始されたばかりの可搬型ドップラーライダーやGPSゾンデのデータ集積・解析システム構築ならびにその活用にも大きく貢献している。

鈴木パーカー明日香博士の講師昇任により空席となった助教の後任には、同じく平成31(2019)年4月1日付けで平田英隆博士が新たに任用され、立正大学環境気象学分野はスタッフの入れ替えがあったものの教授2名、専任講師1名、助教1名の4名体制を維持することとなった。これにより環境気象学分野のみならず、環境システム学科全体としても、教育・研究体制が維持され、活発な教育・研究活動が継続されることが期待される。

## 背景

鈴木パーカー明日香講師が所属する立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野は、個々の教員の教育・研究活動とともに、熊谷～高崎・前橋にかけて関東平野北西部猛暑の発生メカニズム解明を目的とした観測的研究やコンピュータシミュレーション解析研究を推進している。ヒートアイランド等の地表面熱収支の差に起因する比較的小規模な現象を専門とする中川清隆教授，ロスビー波砕波等の大規模な現象を専門とする渡来 靖教授，メソ循環系ダウンスケーリング等の中規模な現象を専門とする鈴木パーカー明日香講師，および大気海洋相互作用を専門とする平田英隆助教を要する立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野は，バランスよく各分野の研究者4名が揃った私立大学としては屈指の気象教育機関である。

立正大学地球環境科学部環境システム学科の卒業要件総単位数は126単位だが，環境気象学分野で卒業論文を執筆して卒業する際における気象学関連のカリキュラムにおける必修科目および選択必須科目は以下の通りであり，卒業までの修得単位数は最低30単位，最大40単位に及ぶ。

### 学部1年必修科目

気象と水の科学 (2単位)

環境気象学概論 (2単位)

環境調査の基礎および実習 (2単位)

### 専門科目A群 (学部2年8単位必修)

気候・気象学 (2単位)

総観気象学 (2単位)

大気大循環論 (2単位)

環境気象学実習 (2単位)

### 専門科目B群 (学部2～4年6単位選択必修，それ以上の単位もすべて卒業要件単位)

気候変動論 (2単位)

微気象学 (2単位)

大気環境モニタリング (2単位)

大気環境シミュレーション (2単位)

温暖化と酸性雨 (2単位)

都市大気環境 (2単位)

——以下2科目は気象分野選択必修科目ではないが，気象分野教員が担当——

環境流体力学 (2単位)

シミュレーション技術 (2単位)

---

### 学部3年必修科目

セミナーの基礎 (2単位)

セミナー (4単位)

#### 学部4年必修科目

##### 卒業研究指導（卒業論文含む）（4単位）

鈴木パーカー明日香講師は、上記の科目のうち「 세미나の基礎」「 세미나」「卒業研究指導（卒業論文含む）」で学生指導を行うとともに、「気象と水の科学（分担）」「環境気象学概論（分担）」「総観気象学」「大気環境シミュレーション」「温暖化と酸性雨」等の授業科目を担当する。また、立正大学には大学院地球環境科学研究科が併設されており、鈴木パーカー明日香講師は同研究科環境システム学専攻気圏環境学分野M<sup>Ⓢ</sup>講師として、同分野博士前期課程の研究指導も担当する。